

2009 年度 活動計画案

はじめに

1989年11月20日、国連44回総会で「子どもの権利条約」が全会一致で採択され、今年
は20周年の節目を迎えます。

人権思想の土台には平和への希求があります。二度にわたる大規模な世界戦争をくいと
められなかった苦い経験を踏まえて組織された国際連合は、二度と戦争の愚を繰り返さな
いためには人権が保障されなければならないとの視点から、1949年に「世界人権宣言」を
採択、1959年「児童の権利宣言」を採択しました。けれども、国の義務を明確にし、実効
性をもたせるためには条約にしなければなりません。「児童の権利宣言」採択から30年「子
どもの権利条約」が採択されたのです。

第二次世界戦争で多くの子どもの生命が奪われたポーランドから提案され、ユニセフや
アムネスティなどのNGOも参加して、10年にわたる大変熱心な議論の末まとめられたも
のです。最初の草案を提出したポーランド代表アダム・ロパチカ氏は、この条約は10年の
不屈の協議と交渉の果実であると述べています。異なる文化、宗教、法制度、政治、経済
の中での妥協の産物であるが、その妥協は弱さではなく、知恵と相互理解を反映してい
るとも述べています。子どもが一人の人として尊重されることが、これからの社会にとっ
て重要な課題であるという信念に基づく不断の努力により成文化されたものです。私たち
は、この条約の趣旨を受け止め、子どもたちの現実に立って議論し、実際の社会の中に具
体化していく努力をあきらめてはいけないと思います。

ユニセフは「子どもの生命」というテーマをあげ、970万人の5歳未満児の年間死亡数(2006
年)を2015年までに400万人に減らすという目標をあげています。私たちは、なお多くの
戦争・紛争を解決できず、戦禍による貧困、飢餓、衛生環境の悪さが子どもの死亡率の高
さの背景としてあります。

日本は、子どもの死亡率は最も低い国の一つです。けれども、子どもの生命が大切にさ
れているかと言えば、残念ながらノーと言わざるを得ません。最も身近で、頼るべき家族
に殺されてしまう子どものニュースが後を絶ちません。厚生労働省は、2003年～2006年
の児童虐待死数は295人と発表しています。毎月6人以上の子どもが殺されていることにな
ります。明らかにならない場合も相当あると考えると、子どもの人権を根本から見直す必
要があるのではないのでしょうか。子ども情報研究センターの諸活動に届く、多くの子ども
たち、保護者たちの切実な声から見えてきた課題を積極的に社会に発信していかなければ
なりません。

総会記念企画として、シンポジウム「子どもの権利条約20年～子どもの参画をどうすす
めるか」をはじめとして、機関誌『はらっぱ』誌上にコーナー「子どもの権利条約20年」
を新設します。また、「子どもの権利条約」国連採択20周年記念事業として、関連団体と
共催した企画も積極的に取り組んでいきたいと考えています。こうした取り組みを通して、
この20年を振り返り、今後の課題を探りたいと考えています。

会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

I 組織・運営

1. 第33回定例総会

日時：2009年5月30日(土)13時半～17時

場所：pia NPO 6階大会議室

記念企画：「子どもの権利条約20年～子ども参画をどうすすめるか」

シンポジスト 垂水進悟さん（ミニ☆大阪実行委員長、四天王寺大学2回生）
二葉智代さん（ミニ☆大阪代表、あそびのまち社パートナー）
平野裕二さん（ARC-Action for the Rights of Children-代表）
浜田進士さん（関西学院大学教員、子どもの人権ファシリテーター）
コーディネーター 堀 正嗣（子ども情報研究センター副所長）

2. 会員の拡大と広報の充実

(1) 会員の拡大

昨年度に引き続き、会員の拡大に取り組む。

(2) 広報の充実

- ①ホームページおよびブログの更新に努める。
- ②子ども情報研究センター活動紹介用パワーポイントを改良し、活用する。
- ③現会員に継続していただくため、魅力ある情報（講座・学習会等の案内、事務局情報）を随時、発信する。
- ④チャイルドライン夢メッセージ展を中心に企業の協賛・後援を得るべく、広報に努める。
- ⑤センターの相談事業（チャイルドラインOSAKA、ファミリー子育て何でもダイヤル、子ども家庭相談室）を知ってもらうべく、市民フェスタ等に参加し、広報に努める。
- ⑥ロゴを、それぞれの活動の講座や研修チラシ等に積極的に活用し、周知する。

3. 企画委員会

今年度も各部門から企画委員を委嘱し、センターの事業企画・運営について議論する。
企画委員会は2か月に一度開催予定。

《2009年度企画委員》

白砂大地（大阪市子ども青少年局ほっとスペース事業）、石打澄枝（大阪府子ども家庭サポーター協議会）、今橋千晶（チャイルドラインOSAKA）、宇治野崇弘（ユアボイス）、南田安紀子（はっぴいポケット）、川原由香里（子どもとあそびのネットワーク）、内山洋子（ファミリー子育て何でもダイヤル）、奥村仁美（保育部ももぐみ）、辻本みゆき・中内典子（つどいの広場）、小谷訓子（理事）、堀井二実（保育）、山中多美男（顧問） 計13名
田中文字子、堀正嗣、山下裕子、国松祐子、山崎秀子（事務局）

4. 部門制

多岐にわたる事業の運営責任を分担するために部門制を継続する。

子ども情報研究センター組織図

会 員 総 会	センターの最高意思決定機関。
理 事 会	総会で選出された理事により意思決定を行う。 センターの企画・運営に責任を負う。
執 行 機 関	
所 長	総会、理事会の意思決定に基づく事業遂行の最高責任者。
副 所 長	所長を補佐。
事 務 局 長 事 務 局 次 長 事 務 局 員	所長の指示の下、各事業の連絡調整等、事務の実務を遂行する。
企 画 委 員 会	所長の下に置かれ、総会・理事会の決定に基づいて、センターの企画運営を行う。多岐にわたる事業の連絡調整機能を担う。
部 門	多岐にわたる事業の運営責任を分担する。総会・理事会の決定に基づき、所長の指示の下、各部門の意思決定・企画運営を行う。 <ul style="list-style-type: none">・ 研究部門・ 編集部門・ チャイルドラインOSAKA部門・ ファミリー子育て何でもダイヤル部門・ はっぴいポケット部門・ ユアボイス部門・ 子ども家庭相談室部門・ 子どもとあそびのネットワーク部門・ 大阪府子ども家庭サポーター協議会部門・ 大阪市子ども青少年局ほっとスペース事業部門・ 保育部ももぐみ部門・ 大阪市つどいの広場事業部門

5. 「はらっぱ基金」

子ども情報研究センターが取り組んできた子どもの権利擁護事業は、行政からの業務委託を受けたり、企業等への助成金申請を積極的に行うなど、2008年度は黒字決算とすることができた。各種事業の継続が危機に瀕したり、新たな事業の開始が必要になるときまで、できるだけ有利に預金しておくこととする。

Ⅱ 事業

1. 子どもの人権、人権保育・教育等に関する研究、研修事業

(1) 共同研究者会議

今後のセンターの研究活動のあり方、研究と実践の連携のあり方などについて検討していきたい。

(2) テーマ別研究部会

「障害児の生活と共育を考える」「子どものことばと生活」「からだ育て」「乳幼児のあそび・集団」「子ども人権」「子育て連携」「子育て支援」の7つのテーマ別に会員の自主ゼミナールとして運営する。

(3) 第31回人権保育教育連続講座

テーマと内容に連続性をもたせ、連続での参加を呼びかける。プログラムは次の通り。

新「保育所保育指針」理論と実践～子どもの人権を大切に作る保育を、ともに～

【前期プログラム】

	日程	テーマ	講師
1	6/2 (火)	「子どもの権利条約」と保育 ～条約採択20年を迎えて	堀 正嗣 (子ども情報研究センター)
2	6/10 (水)	新「保育所保育指針」のポイント ～保育課程をどう考えるか	堀井二実 (園田学園女子短期大学)
3	6/17 (水)	保育制度の動向 ～少子化対策特別部会報告をめぐって	余田俊和 (大阪府福祉部こども室子育て支援課保育グループ)
4	6/24 (水)	多文化共生保育 ～ちがいをみとめあい、ともに育つ保育	森本宮仁子 (大阪聖和保育園)
5	7/1 (水)	障がいをもつ子どももたない子どもともに ～特別支援教育を超えて	堀 智晴 (大阪市立大学)

○時間：14：30～16：30

○場所：piaNPO 6階大会議室

*後期プログラムは企画・調整中

(4) 第30回全国保育集会（自治労主催／子ども情報研究センター協賛）

2009年7月31日（金）～8月2日（日）鹿児島県鹿児島市にて開催予定。

(5) 第2回自然教室「湖は生きている」

昨年に引き続き、森山康浩理事長を講師に、自然教室を開催予定。

日時：11月7日（土）・8日（日）

場所：滋賀県高島市「針江 生水の郷」

(6) 「子どもの権利条約」国連採択 20 周年記念事業【新規】

「子どもの権利条約」国連採択 20 周年を記念し、関連団体と共催してイベントなどを開催する。

①子どもの権利条約採択 20 周年記念事業ネットワーク 2009

日時：8月29日（土）・30日（日）

場所：全労済ホール・スペースゼロ（東京都新宿区）

共催：子どもの権利条約総合研究所ほか、CRC ネット 2009

②子ども支援学シンポジウム「子ども支援のこれから」

日時：10月24日（土）13：30～17：00

会場：千里金蘭大学大阪梅田キャンパス

共催：子どもオンブズパーソン研究会、子どもの権利条約総合研究所

2. 編集・出版、情報提供事業

(1) 機関誌『はらっぱ』（月刊）の編集・発行

今年度も月1回編集会議を開き、編集に当たっていく。

編集委員：田中文子（編集長）、大森順子、合田由紀子、国松祐子、近藤亜矢子、社納葉子、堀井二実、増山育子、三浦侑子

*コーナーを少しリニューアルし、レイアウトも新たに依頼した。

表紙／もくじ／特集／グラビア／ティーンズメッセージ from はらっぱ／子どもの世界・おとなの世界（浜田寿美男さん連載）、サバイバル手帳（辛淑玉さん連載）（隔月）／子ども時評／保育・ゆめ・未来／子どもの権利条約 20 年／子どものいま／学校のお作法／10 代アルバイトの“仕事のゲンバ”／ともに生きる（堀正嗣さん連載）、保育教育のホンネを語る～王さまの耳はロバの耳（隔月）／虹色のはらっぱ／子育ての「これってどうなん？」／はは日記、親と子の自然教室（隔月）／子どもと医療～ドクター、こんなこと聞いていい？／LETTERS／自由空間☆きらり／つどいの広場／だから、これが好き／子ども家庭サポーターだより／〇月の予定／ニュース切り抜き帳／情報／ピックアップ／事務局日誌

*特集テーマ

4月号：「子どもの権利条約」20年

5月号：外国籍教員の現状を知る～ひとつの事例をめぐって

6月号：「子どもの貧困」をめぐる現状について、わたしたちはどう考えるのか（仮）

7月号以下検討中

(2) ホームページ、ブログ

ホームページおよびブログの更新に努め、情報発信を行う。ホームページのリニューアルを行い、よりわかりやすい情報発信に努める。

ホームページ <http://www.kojoken.jp>

ブログ <http://www.hnpo.comsapo.net/kojoken/>

(3) リーフレット

新たな活動の展開により、一部加筆修正を加え、1万部印刷。

3. 地域子育て支援ネットワーク事業

(1) ファミリー子育て何でもダイヤル（連合大阪からの事業委託）

毎週水曜 10時～20時 TEL06-6577-1001

- ①体制：1日2～3シフト（1人につき月1～3回程度担当）を組んで担当。
- ②スタッフミーティング
日程：隔月
内容：事務連絡、ケース検討、スタッフ研修・交流会等
- ③集中ダイヤルの実施
24時間体制によるダイヤル活動の検討
- ④広報：カード配布、スタッフ各自による周知活動等
- ⑤年次報告書の作成

(2) はっぴいポケット（親と子の「はっぴいポケット」改称）

piaNP0 301号室で、「はっぴいポケット」を開催し、大切な場と感じあえるひとときを過ごしたい。親子メイン・わたしメインで声を聴きあえる、ぬくぬくポケット・もやもやポケットとして実施する。

対象：0歳からの子どもと親、子ども、子育てにかかわるどなたでも

日時：毎月第2第4金曜日 10:30～12:30

また、つどいの広場や、東住吉区子育てネットワークにもかかわりながら、子育て&子育て支援のエッセンス『まっええやん』からの思いを広域に発信していきたい。

(3) 子どもとあそびのネットワーク

定例会や交流会を通して、「子どものあそびをキャッチ」をテーマに活動する。

あそびのプロセスをおとなも子どもも共有し、子どもの自主的なあそびから、子どもの力を感じあっていく。

- ①親子講座「いろいろなあそびを楽しもう」を子育ていろいろ相談センターにて（8月）。
「子どもからの提案」ということで、4歳以上の子どもからのあそびをキャッチしあう。
- ②あそび集を発行する。
- ③ブログの公開 <http://asonet.exblog.jp/>
- ④隔月定例会を行う。

(4) 大阪府子ども家庭サポーター協議会（サポーターネット）

- ・世話人定例会：年5回程度開催（6月、7月、9月、12月、3月予定）
- ・フォローアップ研修 【今日から使える市民活動に「役立つ」講座】計4回
- ・交流会 1回

(5) 保育部ももぐみ

2009 年度は、子どもにかかわるさまざまな人と、保育について語りあい、そこからのまなびや気づきを得るようにしたい。「2009 年度大阪府共同募金配分金」を活用して、そういった場を設定するだけでなく、実際の保育の場まで出向いて行って、互いにまなびあえる時間を共有することを計画している。出向いていった先で、子どもとも出会い、ももぐみが大切にしてきた「子どもからまなぶ」ということを伝えていけたらと思う。子どもにかかわるおとな、子どもがともに過ごす「保育ひろば」のような場づくりも考えていきたい。

また、保育担い手となるももぐみメンバーを増やすことも視野に入れて、講座や研修を企画・開催し、子どもの人権を大切にした保育や、子ども・保護者・保育者との関係を考える機会としたい。

これらを一連の事業として展開しながら、保育担い手派遣も適宜、こなしていく。担い手のまなびあいとともに、保育リーダーやコーディネーターの育成の必要性も感じているので、派遣を通して実際に応じた役割をかたちにしていくことを計画している。

4. 子どもエンパワメント事業

(1) チャイルドライン O S A K A

- ①開設時間：毎週金曜 16 時～21 時
- ②開設番号：0120-99-7777
- ③定例会議、研修チーム会議、運営チーム会議、広報チーム会議の開催
- ④広報：カード・ポスターの作成・配布
- ⑤チャイルドライン受け手養成講座の開催
- ⑥チャイルドライン夢メッセージ展 2009 の開催（大阪市、松原市）
- ⑦他団体との連携
 - ・チャイルドライン支援センター総会（5/30）
 - ・チャイルドライン阪神連絡会
 - ・近畿エリア合同研修会
 - ・チャイルドライン全国フォーラム（11/21、22）

(2) 子ども家庭相談室

- ①開設時間：毎週月・火・木 10 時～20 時 TEL06-6577-1001
面接は木曜のみ 面接予約 TEL06-4708-7087
- ②「被害者救済システム」連携支援機関（大阪府教育委員会からの業務委託）
- ③年次報告書の作成
- ④いじめ、性被害、体罰等で傷ついた子どもの回復を支えるプログラムの作成

(3) ユアボイス

活動報告でも書きましたが、ホームページ版の過去番組のブログ版化、はやいうちに順次作成していこうと思っています。宣伝も個々人のツテ主体ですが継続していく予定です。

09 年度はホームページ版&ブログ版双方に、電話版ユアボイスのように肉声の番組をつ

けてみようかと話しています。元の番組のように長いものではなく3分くらいの、テーマ1つ分の内容ができたらいいなあ、と企画を練っています。今のように1つの番組にいろいろテーマを詰め込んで作るだけでなく、よく話題になるテーマは別に部屋を作り、いくつかの番組を同時に制作してみてはどうか、という話もあがっています。

ホームページ版 <http://www.kojoken.jp/yourvoice/topyourvoice.htm>

ブログ版 <http://yourvoiceblog.seesaa.net/>

(4) ティーンズメッセージ from はらっぱ

今年度も、『はらっぱ』誌上でさまざまな子どもたちの生の声や活動を発信していく。

5. 行政との協働

業務委託をはじめ、行政との協働を引き続き行う。

(1) 大阪市青少年局ほっとスペース事業（(財)大阪市教育振興公社からの業務委託）

「自由空間☆きらり平野」

- ①対象：原則として小中学生年齢の学校に行っていない子ども。
- ②開設日時：火・水・金・土 11:00-15:30（祝日は休み）
- ③スタッフ：コーディネーター1名、メンタルフレンド2名

(2) 大阪市つどいの広場事業（大阪市からの事業委託）

大阪市つどいの広場事業の委託を受け、市内3か所でつどいの広場を実施する。

- ・港区：はっぴいポケットみ・な・と（月・火・水・金・土 10:00～15:00）
- ・淀川区：育児&育自“この指と～まれ!”（月～金 11:00～16:00）
- ・北区：みつるポケット（月～金 10:00～15:00）

(3) 24時間電話相談（大阪府教育委員会からの業務委託）

- ①開設時間：平日 17時半～翌朝 9時半および祝休日終日
- ②電話番号：0570-078310（全国統一電話番号）、06-6577-5125（直通電話番号）

(4) 「被害者救済システム」連携支援機関（大阪府教育委員会からの業務委託）

- ①継続して、子ども・学校・教職員への周知を図る。
- ②体罰やスクール・セクシュアルハラスメント等により、傷ついた子どもへのかかわり方についての研修を実施する。

(5) 大阪市子ども家庭支援員研修事業（大阪市からの事業委託）

2002年より委託されている本事業であるが、新規養成・現任研修ともに今年度は未定。

(6) その他

行政からの講座・研修の企画運営を受託・実施予定。

6. その他

(1) 『自治労の保育運動』編集（自治労中央本部からの業務委託）

年3号編集。各2000部発行。

第20号（2009年7月）、第21号（2009年11月）、第22号（2010年2月）を編集予定。

(2) 国際交流事業

アジア保育・教育交流推進実行委員会「大阪マイペンライ」に参加。監査役を務める。
大阪マイペンライ「タイ保育研修事業」への講師派遣。

①8月30日（日）～9月6日（日） 廣田峰子

②12月予定

(3) 講師紹介事業

行政、社会福祉協議会、NPO等が主催する講座等に講師の紹介をしていく。

(4) 講座企画・運営委託事業

行政、学校等からの講座・研修の企画運営を受託・実施予定。

(5) インターンシップの募集・受け入れ

昨年度に引き続き、今後の人材を育成し、新たな出会いを広げることを目的に、インターンシップの募集・受け入れを行う。ホームページへの掲載、大学への広報により募集。民間団体での事務局業務や子ども家庭支援等、実地体験の機会としてもらう。

募集内容

① 民間団体（法人）運営について学びたい方

・事務局にて事務作業、事業運営の各種サポート

② チャイルドライン（子ども専用電話）について学びたい方

・チャイルドライン運営のサポート

（チャイルドラインの電話を受けるボランティア（受け手）を希望する方は、養成講座受講が必要。受講料は実費要）

③ 子育て支援、子ども家庭支援、保育について学びたい方

・子育て支援、子ども家庭支援、保育に関わる事業のサポート

・「つどいの広場」（大阪市より委託運営、3か所）での実習

④ ホームページ制作、チラシ制作、広報について関わりたい方

・ホームページやチラシ制作等の広報作業に関心のある方、広報戦略に関心のある方

(6) 企業と連携した子育て講座、イベント等の企画・開催

企業と連携した子育て講座、イベント等の企画・開催、企業の社員向け子育て講座、経営者・管理職向け子育て支援講座等について、企画の検討を進めていく。

2009 年度役員体制（案）

理事	森山 康浩	（子ども情報研究センター共同研究者）	…重任
	小田 晃之	（自治労大阪府本部 健康福祉部長）	…重任
	高橋 定	（部落解放同盟大阪府連 子育て運動部長）	…重任
	高瀬 正美	（連合大阪 男女平等推進部長）	…重任
	原 ひとみ	（大阪府教職員組合 中央執行副委員長）	…新任
	矢木 一美	（大阪府私立幼稚園連盟 副理事長）	…重任
	田中 文子	（子ども情報研究センター所長、 川西市子どもの人権オンブズパーソン専門員）	…重任
	堀 正嗣	（子ども情報研究センター副所長、 熊本学園大学教授）	…重任
	小谷 訓子	（子・己育ち相談「リリース」主宰）	…重任
監事	吉田 洋子	（子ども情報研究センター共同研究者）	…重任
	堀井 二実	（園田学園女子大学短期大学部教員）	…重任
顧問	鈴木 祥蔵		
	山中 多美男		
	石原 忠一		